

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
Y I C 京都ビューティ専門学校	平成21年12月2日	村田 忠男	〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下の西油小路町2 7 番地 (電話) 075-371-4100				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人京都中央学院	平成19年1月22日	井本 浩二	〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下の西油小路町2 7 番地 (電話) 075-371-4040				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士			
衛生	衛生専門課程	美容科	平成22年文部科学省 告示第152号	-			
学科の目的	良識ある社会人として必要な資質を持ち、地域社会の発展に貢献できる心豊かな美容業界のスペシャリストとして活躍できる人材を育成する(教育理念)。 具体的には 1. 自分を磨くとともに、まわりの人たちの心と身体を癒しながら美しく健やかな人を創り出すことに喜びを感じ、そのための正しい知識と高い倫理観を持った人材。 2. 外見の美しさだけでなく、健康、知性、感性、人間性、心、自信、教養、これら全てが、真の美しさを創り出す大切な要素であると考え、美容、エステ、メイク、ネイル、ブライダル等ビューティ分野全般の基本的知識・技術を持つとともに、それぞれの専門分野のプロフェッショナルとして必要な技術・知識を究めた人材。 3. 常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため、就職後も技術を研鑽し知識を蓄え、職業人としての使命感を持った人材。 4. 人間的な魅力を備え、接客や対人コミュニケーションの場において、「おもてなしの心」で接することのできる人材。 5. 利他の精神で働くことに社会的意義を感じることでできる人材。 6. 美容師であることをベースに、ヘアメイクアーティスト、ヘアメイクアーティスト、カラリスト、サロンディレクターといった髪・顔・装いのそれぞれの分野を深く極めたスペシャリストであるとともに、一人の人間をトータルにとらえ、総合的な美を演出できる人材。 7. 将来美容業界の指導的立場やリーダーとなりうる人材。						
認定年月日	平成26年3月31日						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2,040	25	0	60	0	0
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160人	148人	0人	3人	6人	9人		
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率80%以上、ペーパーテスト及び実技 成績: 秀(100-90) 優(89-80) 良(79-70) 可(69-60) 不可(0-59)			
長期休み	■学年始: 4月1日～4月10日 ■夏季: 7月25日～8月31日 ■冬季: 12月23日～1月10日 ■学年末: 3月10日～3月31日			■卒業・進級条件 卒業の要件: 必修科目53単位(1,590時間)及び選択科目15単位(450時間)以上 計68単位(2,040時間)以上の履修 科目履修(単位)認定の要件: 80%以上の出席 および 期末試験 60点以上 学費及び教材費等の完納			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者への連絡を密にし、適宜本人との面談や場合によっては保護者を含めた三者面談を実施。状況把握と指導を行う。都度指導記録を残す。相談・支援は担任だけでなく学生支援室にて相談窓口を設置。相談室では専門のスクールカウンセラーが、学生や保護者の相談に対応しています。			■課外活動の種類 学園祭実行委員、オープンキャンパス学生スタッフボランティア他 ■サークル活動: 有			
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) 美容室、ヘアサロン、ヘアメイク事業所等 ■就職指導内容 キャリアサポート室は、学生の皆さんのこれらの支援を進めるための中心的な役割を担っています。学生の皆さんが、最適な就職ができるように個別相談、各種情報の提供、会社説明会やガイダンス・セミナー、個別面談、個別面接指導などの実施。 ■卒業生数 : 43 人 ■就職希望者数 : 43 人 ■就職者数 : 41 人 ■就職率 : 95 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 95 % ■その他 ・進学者数: 0人 (令和2年度卒業者に関する 令和3年5月1日時点の情報)			■主な学修成果(資格・検定等) ※3 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報) 資格・検定名 種 受験者数 合格者数 美容師国家資格 ② 43人 35人 JHCAヘアカラリスト検定 シングルスター ③ 43人 43人 日本ヘアケアマイスター 協会ヘアケアマイスター ③ 34人 15人 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄			
中途退学の現状	■中途退学者 5名 令和2年度年4月1日時点において、在学者116名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者111名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更就職の為、学習意欲の低下、学費未納金銭的な問題 ■中退防止・中退者支援のための取組 入学前学習教材および実力テストによる基礎学力確認および基礎学力向上支援の取り組み。クラス担任制を設けて学生生活を支援するとともに適宜面談の実施。hyper-QUアンケートの実施・分析による学生面談の実施。スクールカウンセラーの設置およびカウンセリングによる支援および個別相談窓口の設置等。			■中退率 4.3 %			
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待奨学金制度(一般常識、面接、書類審査によりSABランクの特待生を選抜)初年度学費よりS:学費20万円免除、A:10万円免除、B:5万円免除 ・ファミリーサポート制度(YICグループ校の在学生または卒業生に親、子、兄弟姉妹がいる者に対し初年度学費より5万円免除) ・ひとり暮らしサポート制度(通学困難者で下宿をせざるを得ない者に対し毎月5千円補助) ・就学支援制度(大学・短大・専門学校卒業&見込生、社会人経験3年以上であり、本校に入学を希望する者に対し、初年度学費より10万円を免除) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 ・前年度の給付実績者数: 0名						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無						
当該学科のホームページURL	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

進歩している業界の知識・技術を取り入れ、教育課程を「生きた」ものにするために教育課程編成委員会を組織する。

より業界のニーズに沿った人材育成に係わっていただき、PDCAのサイクルを回して、教育の硬直化を避け、就職率・定着率のアップを産・学・官・民協力の下、推進していくことが目的。

より実践的、業界事情にあった科目を展開するべく委員それぞれの立場や視点からの率直なご意見をいただきながら、教育課程の各科目の内容・シラバスなどを検討していただき、新たな導入・内容改善・時数設定などの検討を行う。

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とした委員会を置く。

委員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、会議の結果をカリキュラム検討会議に報告するものとする。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

・機関企業等からの提言・意見を反映し、職業実践的な教育を行うための、教育課程編成における諮問機関である。

・学校運営から独立した機関であり、理事会直轄の諮問機関とする。

・臨時委員会は、各種検定資格の内容変更・新技術の導入・業界の新しい動向により教育課程編成を変更・追加が必要になった場合などに委員の要請により開催する。

教育課程の各科目の内容・シラバスなどを検討していただき、新たな導入・内容改善・時数設定などの検討を行う。

会議の結果をカリキュラム検討会議に報告し、学科、コースごとに教育課程の各科目の内容・シラバスなどを検討する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年7月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
玄田 宗七	滋賀県美容業生活衛生同業組合 理事長	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日(2年)	①
藤本 圭哉	株式会社ガモウ関西 代表取締役社長	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日(2年)	③
伊佐治 勇樹	株式会社ORESS 代表取締役	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日(2年)	③
川畑 勉	資生堂プロフェッショナル株式会社 営業部 西日本統括部 西日本1グループ 部長	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日(2年)	③
岡澤 ひとみ	株式会社WEDDGE 代表取締役	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日(2年)	③
三木 千恵子	株式会社ロイヤルホテル プライダル 課長	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日(2年)	③
中垣 拓磨	有限会社ラ・リヴィエール 取締役マネージャー	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日(2年)	③
村田 忠男	Y I C 京都ビューティ専門学校 校長		
田澤 初美	Y I C 京都ビューティ専門学校 教務課長		
澤 智春	Y I C 京都ビューティ専門学校 総合支援課長		
山根 大助	Y I C 京都ビューティ専門学校 内部監査・I R 戦略室長		
細田 元一	学校法人京都中央学院 本部長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (5月、11月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年5月24日 15:00~17:00

第2回 令和3年11月中旬~下旬(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

カラーの授業について→カラーの資格についてはJHCAの技術の資格になるがシングルからダブルスター取得は現場でも難しい、美容室で3年、4年目の方が取得を目指すようなザインカラーの資格を在学中に取得させたい。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

国家資格である美容師資格習得に必要な教育科目は美容師養成施設指定規則で定められており、資格取得のために全員が習得しなければならない基礎的・汎用的技術であり必須科目と位置付ける。一方、美容分野の職業に必要な実践的な能力は、業界の最新技術、現場の技術者による実践的技術、業界の動向等、企業等との密接な連携が必須であり、職業教育の質が確保できるとして、選択必須科目および選択科目と位置付ける。

後者の科目については、地域社会で美容業界を主導する50社以上のサロンをネットワークサロンとして組織し、連携することにより、美容業界が求める知識・技能・実務を的確に反映した教育体制としている。ネットワークサロン以外の美容業界のみならず、ビューティ分野の企業、理美容組合、メイク、ネイル、ブライダル、アロマ、マナー等専門分野の学協会とも連携する。

連携の効果をより確かなものとするため、本校と企業、学協会が相互に基本方針を確認し、連携の協定書を結ぶ。具体的な実習・演習計画、授業方法、学修成果の評価、講師(担当者)、等については連携の協定書締結時に確認する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

・企業等と協定書を締結し、連携授業として美容実習(カット基礎)や美容実習(カラー基礎)の授業や、校外(実務研修)でのインターンシップを行っている。学習内容、評価などは期初に当該企業等との打ち合わせにより決定したシラバスに沿って行っている。

・インターンシップは学校とインターン生受け入れ企業と個別に覚書を結び、学生のレポート⇒企業側のコメント⇒学校のコメント・評価⇒学生へのフィードバックにより学修成果を評価し、その結果を企業に報告することにより、科目の成果、改善・改革を図っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
美容実習 (カット基礎)	カットの基礎を学ぶ。直接スタイリストの方からカットを指導してもらい、基礎的に技術・理論を学習。	KAINO
美容実習 (カラー基礎)	カラーリストとしてサロンワークに直結した内容を学び、美容師としての奥深さを知る	JHCA日本ヘアカラー協会
美容実習 (シャンプー・ヘッドスパ)	頭皮理論、ヘッド・スパ技法の習得、及びコンサルテーション能力向上を目指す	資生堂プロフェッショナル株式会社
ネイル基礎	ネイル基礎知識・ネイルケア・カラーリング・検定アート 検定3級対策の実施 ベーシックなネイルの技能と知識の基礎を習得 JNECネイリスト技能検定3級受験	株式会社ガモウ関西
専攻授業 (メイク・ブライダル専攻)	メイクに強いスタイリストになる為、イメージメイク、ショーメイク、撮影用メイクを学ぶ	REKO美容室、新井会

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

変わり続ける時代のなかで、専門的知識・専門的技術を持ち、社会に対し柔軟に対応できる人材を教え育てるためには、教員自身が常に研鑽を行い、美容分野の技術・知識を深化させるとともに指導力の向上、企業等との連携による研修等を通して時代に即応した実務能力(知識・技術・技能)の習得・向上に努めなければならない。

「学校法人京都中央学院教職員研修規程研修等」に基づき、校内外の研修については、年度計画に基づき学校が学習機会の提供等を行い、また自己申告により日程、費用等便宜を図る。特に授業力、担任力、等の指導力の向上についてはY I Cグループの人材育成計画に基づく教職員研修規程によりグループ内、校内外で計画研修を実施する。また、職業教育・キャリア教育財団、全国専門学校経営研究会、京都府各種学校・各種専門学校協会(京専各)等が実施する研修にも積極的に参加させる。

美容分野の時代に即した実務能力については、企業等が主催・実施する研修会への他、関係企業との連携や教育課程編成委員会等の意見を反映し、個別企業に教員研修を依頼、また資格取得などを奨励する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「JBCA認定教員研修会」(連携企業等：N P O法人日本ビューティ・コーディネーター協会)

期間：令和2年8月6日(木) 対象：教員

内容：・JBCA特別認定校の申請

- ・日本ビューティ・コーディネータ協会の発足について協会挨拶
- ・テキスト内容の確認。検定内容の動向
- ・参加校の授業体制の情報共有・意見交換

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「W I T Hコロナ 学生募集セミナー」(連携企業等：株式会社エデュース)

期間：令和2年10月9日(金) 対象：教員

内容：2021年度学生募集後半戦に向けた戦略立案セミナー コロナ禍の中、これまでの学生募集との違い

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「JBCA認定教員研修会」(連携企業等：N P O法人日本ビューティ・コーディネーター協会)

期間：令和3年8月30日(月) 対象：教員

内容：・JBCA特別認定校の申請

- ・日本ビューティ・コーディネータ協会の発足について協会挨拶
- ・テキスト内容の確認。検定内容の動向
- ・参加校の授業体制の情報共有・意見交換

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「 教学マネジメント研修」(連携企業等：三菱総合研究所)

期間：令和3年8月20日(金) 対象：

内容：何故教学マネジメントが求められるか、他校事例紹介

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

より実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換を通じて、学校の自己評価の結果を評価することを目的とした委員会を置く。
委員会は、教育活動及び学校運営の状況についての自己点検評価の結果を踏まえた学校の評価を行い、その結果を校長に報告する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1 教育理念・教育目標
(2)学校運営	2 学校運営、3 教育活動、9 財務
(3)教育活動	3 教育活動、8 教育の内部質保証システム
(4)学修成果	4 学習成果、8 教育の内部質保証システム
(5)学生支援	5 学生支援
(6)教育環境	6 教育環境
(7)学生の受入れ募集	7 学生の受入れ募集
(8)財務	9 財務
(9)法令等の遵守	2 学校運営、8 教育の内部質保証システム、9 財務
(10)社会貢献・地域貢献	10 社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	11 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

4. 学習成果→教員のスキルUPをさらに高める計画的・継続的研修等の取組が必要である。これらの評価が授業自体の評価であってカリキュラムやその手法などの評価となるが、授業アンケートはとっているが体系的に取り組んでいない。

改善としては授業自体の評価ができていない。教員の質を上げるための研修など積極的に研修参加を促し、自己スキルUPのための自己研鑽に意識して取り組みさせる。
教員間でお互いの授業参観を行い授業の質の向上に繋げる。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年7月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
玄田 宗七	滋賀県美容業生活衛生同業組合 理事長	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	業界団体
藤本 圭哉	株式会社ガモウ関西 代表取締役社長	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	業界企業
伊佐治 勇樹	株式会社ORESS 代表取締役	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	業界企業
川畑 勉	資生堂プロフェッショナル株式会社 営業部 西日本統括部 西日本1グループ 部長	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	業界企業
岡澤 ひとみ	株式会社WEDDGE 代表取締役	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	業界企業
三木 千恵子	株式会社ロイヤルホテル プライダル 課長	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	業界企業
中垣 拓磨	有限会社ラ・リヴィエール 取締役マネージャー	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	業界企業
寺澤 奈美	株式会社 ザ・フォウルビ	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL:https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/disclosure/

公表時期：令和3年6月25日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨に則り、原則として、ガイドラインが推奨する内容（提供する情報の項目例）全てについて、ホームページ上にて情報提供する。教育活動、その他学校運営の状況、これらの結果は、企業、在学生、卒業生、保護者等関係者にホームページなどに公開・提供していることを、学校便り、オープンキャンパス、案内資料、企業説明会などで広く周知し、理解を得る。企業との連携による職業実践教育を行うためには、企業に対して本校の理念、教育活動の理解が前提であり、具体的な連携を計画する際の基本資料として提示・説明することで企業の協力が得られるものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育目標
(2) 各学科等の教育	学科紹介、学科別教育課程、各学科科目別シラバス、卒業要件、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、取得可能資格一覧、就職実績
(3) 教職員	教員数、学校組織一覧、
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、教育課程編成委員会
(5) 様々な教育活動・教育環境	企業連携授業
(6) 学生の生活支援	ひとり暮らしサポート制度、奨学金窓口の設置、個別相談窓口設置
(7) 学生納付金・修学支援	修学支援新制度、財務報告
(8) 学校の財務	財務報告
(9) 学校評価	自己点検・評価結果の公表、学校関係者評価委員会
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL:<https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/disclosure/>

授業科目等の概要

(衛生専門課程美容科) 令和3年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		保健 I	1年半、計35回(70時間)のうち前半(人体の構造および機能)である。国家試験は最重要であるが、美容師になるための必要知識、技能、態度の取得、論理的思考、合理的な処理能力社会に対する適応力など職業人教育の観点から授業を進める。また、理解しやすいよう、適宜視聴覚教材を利用する。	1前	30	1	○			○		○		
2	○		保健 II	1年半、計35回(70時間)のうち前半(人体の構造および機能)である。国家試験は最重要であるが、美容師になるための必要知識、技能、態度の取得、論理的思考、合理的な処理能力社会に対する適応力など職業人教育の観点から授業を進める。また、理解しやすいよう、適宜視聴覚教材を利用する。	1後	30	1	○			○		○		
3	○		文化論 I	日本のさまざまな髪型、化粧、服装の変遷流行を学び来るべき時代の要請に応じられるデザイナーになる。社会貢献ができる美容業界を目指す。	1前	30	1	○			○			○	
4	○		衛生管理 I	公衆衛生の意義、予防衛生、保健衛生、環境衛生、特に美容業務上で必要不可欠な衛生知識などについてテキストに沿って教授すると共に、その時点における社会の動きなどについても教授する。	1後	30	1	○			○			○	
5	○		美容技術理論 I	美容師としての心構え、美容技術の基礎理論を学ぶ事によって、美容技術の理解を高め、美容実習につなげていく。科学的根拠と系統だった理論を理解することにより、より良い技術と心をお客様に提供できる美容師をめざす。	1前	30	1	○			○			○	
6	○		美容技術理論 II	美容師としての心構え、美容技術の基礎理論を学ぶ事によって、美容技術の理解を高め、美容実習につなげていく。科学的根拠と系統だった理論を理解することにより、より良い技術と心をお客様に提供できる美容師をめざす。	1後	30	1	○			○			○	
7	○		化粧品化学 I	実学としての化粧品化学を理解できるように授業を進める。また、「関係法規・制度」、「衛生管理」、「理容・美容保健」など、他教科との関連性についても適宜述べる。	1前	30	1	○			○			○	

20	○		化粧品化学Ⅱ	実学としての化粧品化学を理解できるように授業を進める。また、「関係法規・制度」、「衛生管理」、「理容・美容保健」など、他教科との関連性についても適宜述べる。	2前	30	1	○			○		○						
21	○		美容文化論Ⅱ	西洋のさまざまな髪型、化粧、服装の変遷流行を学び、来るべき時代の要請に応じられるデザイナーになる。 社会貢献ができる美容業界を目指す。 儀式の席に着用する衣装より日本の伝統に触れ合い、欧米文化のしきたりとわが国のしきたりとの関係を理解する。 礼装の種類と特徴を知りTPOを明確にする	2前	30	1	○			○		○						
22	○		衛生管理Ⅱ	美容師になる上で必要な感染症の知識を学習する。	2前	30	1	○					○						
23	○		衛生管理Ⅲ	消毒法を知り、理学的消毒法、化学的消毒法の特徴を学ぶ。消毒薬の種類と濃度計算式を理解する。清潔保持と清掃の意義を知る。	2後	30	1	○					○						
24	○		美容技術理論Ⅲ	美容師としての心構え、美容技術の基礎理論を学ぶ事によって、美容技術の理解を高め、美容実習につなげていく。科学的根拠と系統だった理論を理解することにより、より良い技術と心をお客様に提供できる美容師をめざす。	2前	30	1	○					○						
25	○		美容技術理論Ⅳ	美容師としての心構え、美容技術の基礎理論を学ぶ事によって、美容技術の理解を高め、美容実習につなげていく。科学的根拠と系統だった理論を理解することにより、より良い技術と心をお客様に提供できる美容師をめざす。	2後	30	1	○					○						
26	○		美容技術理論Ⅴ	国家試験課題を学習し理解することによって、実技課題の習得を容易にする。美容技術理論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳで学んだ事を土台として、さらにトータル的に美容について修得していく。	2後	30	1	○					○						
27	○		美容技術特論Ⅰ	期末試験・国家試験に向けて、カット技術の強化	2通	120	4						○		○				
28	○		美容技術特論Ⅱ	国家試験で定められた課題を作成し、合格レベルまで反復演習を行い資格取得をする	2後	240	8						○		○				
29	○		美容実習(ウェーブⅡ)	ヘアセッティング (国家試験第2課題)	2前	60	2						○		○				
30	○		美容実習(ワインディングⅡ)	ワインディング (国家課題Ⅰ)	2通	60	2						○		○				

31	○		美容実習 (カット応用)	スタイリストとしてサロンワークに直結した内容を学び、美容師としての奥深さを知る	2前	30	1			○	○	○	○
32	○		美容実習 (パーマ応用)	スタイリストとしてサロンワークに直結した内容を学び、美容師としての奥深さを知る	2前	30	1			○	○	○	
33	○		美容実習 (カラー応用)	スタイリストとしてサロンワークに直結した内容を学び、美容師としての奥深さを知る	2前	30	1			○	○	○	○
34	○		美容 総合技術	国家試験 5科目に於ける対策授業	2後	60	2			○	○	○	
35	○		ヘアケア マイスター	美容師として必須な現状説明、技術説明、お手入れ説明の責任を果たす為、毛髪科学、カウンセリング、ヘアケア剤の知識を学ぶ	2前	30	1		○	○	○	○	
36	○		ヘアデザイン 専攻Ⅰ (専攻授業)	スタイリストとしてサロンワークに直結した内容を学び、美容師としての奥深さを知る	2後	60	2	○		○	○	○	
37	○		ヘアデザイン 専攻Ⅱ (専攻授業)	・よりお客様からもニーズがあり、サロンで活用できるクオリティの高いカット技術の知技を身につける。 ・JHCAダブルスター検定試験合格を目標とする。	2前	60	2			○	○	○	○
38	○		メイク・ブライ ダル専攻Ⅰ (専攻授業)	メイクに強いスタイリストになる為、イメージメイク、ショーメイク、撮影用メイクを学ぶ	1後	60	2	○		○	○	○	○
39	○		メイク・ブライ ダル専攻Ⅱ (専攻授業)	ヘアアレンジ・洋風アップ・和風アップ・着付けを学び、サロンでのヘアメイク関連の業務、職業に活かす。	2後	60	2	○		○	○	○	○
40	○		カラー コーディネート Ⅰ	授業は座学を中心とする。 理解を確認するために、適宜チェックテストを行い、知識を確実なものとするようにする。 また、理解しやすいよう、適宜視覚教材を利用する。	1後	30	1	○		○	○	○	
41	○		カラー コーディネートⅡ	授業は座学を中心とする。 理解を確認するために、適宜チェックテストを行い、知識を確実なものとするようにする。 また、理解しやすいよう、適宜視覚教材を利用する。	2前	30	1			○	○	○	
42	○		ビューティ コーディネート Ⅰ	ビューティーコーディネーターとして、社会人として必要な資質を磨く	1前	30	1			○	○	○	
43	○		ビューティ コーディネート Ⅱ	専門的な技術・理論を学び就職に役立てる	2前	30	1	○		○	○	○	

44	○	インターンシップⅠ	実際のサロン勤務を体験（研修）し、これを通して、専門知識を実社会においてどのように活かしていくべきか、今後の自分にとって何が必要かを考える能力を身に付けるとともに就職に繋げる。	1通	30	1			○	○	○	○
45	○	インターンシップⅡ	実際のサロン勤務を体験（研修）し、これを通して、専門知識を実社会においてどのように活かしていくべきか、今後の自分にとって何が必要かを考える能力を身に付けるとともに就職に繋げる。	2前	30	1			○	○	○	○
46	○	美容実習 (コンテストⅠ)	6月・7月・8月・9月にあるコンテスト出場種目の集中練習	1前	30	1	○		○			○
47	○	美容実習 (コンテストⅡ)	6月・7月・8月・9月にあるコンテスト出場種目の集中練習	1通	30	1	○		○			○
48	○	美容実習 (サロンワークⅠ)	サロン実務演習	2前	60	2	○		○			○ ○
49	○	美容実習 (サロンワークⅡ)	サロン実務演習	2前	60	2	○		○			○ ○
50	○	就職ガイダンス	現役美容師の講話を中心に、グループワーク、ディスカッション形式を取り入れた授業	1後	30	1			○		○	○ ○
51	○	キャリアデザイン	就職活動の為の、キャリアガイダンス 1. 自己分析 2. プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身に付ける 3. 仕事を知る	1後	30	1			○		○	○ ○
52	○	基本IT技術	コンピュータを利用した事務作業に必要な文書の作成やマナーについて学習。 必要な技術を効率良く行えるよう繰り返し練習する。 必要に応じたコンピュータの利用技術の取得。	1前	30	1			○	○		○
53	○	プレゼンテーション	「仕事の実践」の知識を活かしながら、プレゼンテーション能力の養成・向上を目指して、プレゼンテーションの基本的な知識を修得し、さまざまな場面で自分の考えをしっかりと相手に伝える積極的な意思表示ができるようになる。	1後	30	1			○	○		○
54	○	ビジネス文章力	講義形式・グループワーク・調べ学習・発表を授業で取り入れる 必要に応じて視聴覚教材使用 美しい字を書く事を授業内で実施 適宜課題提出	1後	30	1			○		○	○

55	○	ビジネス英語	サロンでの対応について色々な場面で会話を学ぶ。授業は簡単な会話を中心としビューティ分野に必要な表現も併せて学ぶ。	2後	30	1			○	○	○	
56	○	イベントプロデュース	具体的なイベント活動の企画・運営を通して企画力・実行力・協調性など社会人基礎力をつける。 イベントを企画する段階から時間軸のプロセスを経て、「最終的な目的達成」のために最高のパフォーマンスを発揮できるよう、イベントのノウハウや、プランニング方法等を実際のイベント運営を通して、具体的に学び、これからのイベントの方向性を探っていく。	2後	30	1	△		○	○	○	
57	○	ボランティア活動	ボランティアの理念、目的、意義、現状や問題点を講義する。ボランティアの理念、目的、意義、現状や問題点を学習した後に、学生の主体的な計画の下にボランティア活動を体験する。	1後 および 2前	60	2			○		○	
合計				85科目	2,550単位時間(85単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	15週

必須科目53単位（1,590時間）および選択科目15単位（450時間）以上 計68単位
（2,040時間）以上の履修
履修方法：ペーパーテスト、レポート、実技テストによる評価

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。